

1. 演習名：社会学特論演習（ネットワーク分析の理論と方法）
2. 担当者：伊藤泰郎
3. 開講時期と時間割：前期木曜 2限
4. 演習内容：ネットワーク研究は社会現象を行為者間の関係から分析する研究領域であり、個人、小集団、企業、国家など、ミクロからマクロまでの様々なレベルにおける「つながり」を分析対象とする。この授業では、主に個人間のつながりであるパーソナル・ネットワークを扱う。個人の行動や意識を考察する場合、ネットワーク研究はその人の属性や信念、感情よりもむしろその人を取り囲む関係に注目する。しかし、個人は関係によって拘束されるだけではない。「社会的事業者」としてネットワークを整備することで、社会的な拘束を乗り越えていくという側面も有しており、ネットワーク研究はそうした点にも注目する。
授業では文献を読んでネットワーク研究について理解を深めていきたい。ネットワーク研究を扱っている講義はほぼないと思われるため（私が担当した前期の社会調査概論の第 15 回で少しだけ扱った）、基礎的な文献の購読から始めるが、ネットワーク研究の面白さを感じてもらうために少しスピードをあげて多くの文献に触れられるようにしたいと考えている。テキストについては①を読んだ上で②に進む予定であるが、これ以外の文献も隨時取り上げる予定であり、候補をいくつか下にあげておいた。以上の説明ではイメージがつかないかもしれないが、①は図書館にあるので、関心を持った人は手に取って少しでも読んでみてほしい。
①安田雪『「つながり」を突き止めろ』光文社新書（2010）
②野沢慎司編・監訳『リーディングス ネットワーク論』勁草書房（2006）
 - ・増田直紀『私たちはどうつながっているのか』中公新書（2007）
 - ・平松闊ほか『社会ネットワークのリサーチ・メソッド』ミネルヴァ書房（2010）
 - ・森岡清志編『パーソナル・ネットワーク論』放送大学教育振興会（2012）
 - ・石黒格編『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房（2018）
5. 評価方法 授業への参加度、授業での報告、学期末のレポート
6. 履修上の注意事項 授業で使用する文献は事前に必ず読んでくること。報告を担当する場合はしっかりと準備してくること。
7. その他 この科目は隔年開講であり、社会学特論演習（外国人と日本社会）と交互に開講している。この科目に関する質問はメール（tito@alpha.shudo-u.ac.jp）でも授業の後でもよい。研究室に来る場合は事前にメールで連絡してほしい。

1. 演習名 社会学特論演習（社会的格差と貧困）
2. 担当者 伊藤泰郎
3. 開講時期と時間割：後期木曜 2限
4. 演習内容：社会的格差の深刻化は、21世紀に入ってから先進諸国において共通した問題となり、日本もその例外ではなかった。その一方で、格差・階層化といった問題は、社会学において古くから重要であり続けたテーマでもある。この科目では、文献の講読によって社会階層論の主要な理論や分析手法を学び、マクロな視点から社会的格差や不平等の状況について考察を行う。1年生の社会学研究入門Ⅰの私の担当部分は「学歴と格差について考える」というテーマで行ったが、関心を持った人はこの演習を履修してほしい。階級や階層を正面から扱った講義はおそらくないのではないか。
授業ではまず入門書である①を読み進める。その上で必要に応じてここであげた文献などを読んでいきたい。主に量的調査による研究を扱うため、前期の「社会調査論Ⅰ（資料・データ分析）」や後期の「量的社会調査法（多変量解析）」をあわせて履修することが望ましいが必須ではない。履修していかなかったとしても理解できるように授業を進める。また、学生の関心にしたがって以下の岩田や阿部、西澤などによる貧困研究の入門書を読むことやフィールドワークの実施も考えている。
①平沢和司『格差の社会学入門〔第2版〕』北海道大学出版会（2021）
 - ・竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂（2013）
 - ・筒井淳也・相澤 真一編『階層・教育』岩波書店（2024）
 - ・林拓也・田辺俊介・石田光規編『格差と分断／排除の諸相を読む』晃洋書房（2022）
 - ・吉川徹『日本の分断—切り離される非大卒若者（レッゲス）たち』光文社新書（2018）
 - ・岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア／ホームレス／生活保護』ちくま新書（2007）
 - ・阿部彩『子どもの貧困—日本の不公平を考える』岩波新書（2008）
 - ・西澤晃彦『人間にとって貧困とは何か』放送大学教育振興会（2019）
5. 評価方法 授業への参加度、授業での報告、学期末のレポート
6. 履修上の注意事項 授業で使用する文献は事前に必ず読んでくること。報告を担当する場合はしっかりと準備してくること。フィールドワークを行う場合は必ず参加すること。
7. その他 この科目は隔年開講であり、社会学特論演習（現代日本社会におけるエスニシティ）と交互に開講している。この科目に関する質問はメール（tito@alpha.shudo-u.ac.jp）でも授業の後でもよい。研究室に来る場合は事前にメールで連絡してほしい。